

(様式 1)

令和 4 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立横川小学校
校長名	近藤 幸弘

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">理科においては、昨年度より学力の向上が見られ、全学年で平均正答率が全国値よりも上回っている。5年では、昨年度、全国平均より下回っていたが、7.4ポイント上昇し、平均以上となった。国語の平均正答率は、全学年で全国の平均正答率よりも上回っている。3年は墨田区の平均正答率よりも6.9ポイント高く、A層13%、B層67%で80%が上位層を占める。最後の作文問題での無回答が減り、自分の考えを書こうとする児童が多く見られた。5年算数においては、令和元年からの4年間で3.4ポイント上昇し、全国平均を上回るようになった。	<ul style="list-style-type: none">全学年で昨年度よりDE層の増加傾向がみられる。特に、国語と社会でDE層が増えている。5年国語では、23%から31%に増加、6年国語では、20%から32%に増加している。社会では、全学年の平均正答率が全国値を下回っている。複数の資料から情報を読み取り、その内容を複合させて答える問題の正答率が低い。記述問題を後回しにする児童が多く、誤答が多くなっている。活用問題よりも基礎問題の方が正答率の低下が見られ、基礎的な問題をおろそかにしがちである。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">授業が楽しい、と感じている児童ほど学力が高い傾向がある。好きな授業や教科があり、学んだことが将来に役立つと感じている児童が8割以上いる。自己肯定感は全体的に高いが、学年が上がるにつれ下がる傾向がある。一方で、D層はできないことができるようになってうれしいと感じる児童が他の層より高い。	<ul style="list-style-type: none">宿題はしているが、予習、復習をあまりしていない児童が4割、全くしない児童も2割程度いる。授業以外の1日の勉強時間が各学年で全国と比較して少なくなっている。テストで間違えた問題をやり直す児童はD層では少なくなっている。授業や日常生活の中で疑問に思ったことなどを自分から調べたりする児童は学年が上がるにつれ少なくなっている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・年2回ずつ、長期休業明けと振り返り週間に、「漢字コンテスト」や「算数コンテスト」を行い、復習に取り組めた。また、計算コンテストを算数コンテストに変えたことで、計算以外の算数の問題にも意欲的に取り組めた。・授業・朝学習・家庭学習を組み合わせ、「ふり返しシート」「ミライシード」「東京ベーシックドリル」に日常的に取り組む、短時間の集中ができるようになった。	<ul style="list-style-type: none">・算数全般の問題に取り組むことに慣れてきたが、読み取りの力や、基礎基本の定着が不十分だった。・「家庭学習」「連絡帳の確認」「学習用具」など、横川スタンダードの約束が、徹底できていない児童は、集中力を持続できない傾向にある。・放課後学習の人材の確保が難しく、各学年月1回程度になってしまったため、十分な補充的学習ができていない。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的に学び、課題を見付ける力や表現する力の育成

- ・「主体的に考え、学び合う児童を育てる指導の工夫」を研究主題とし、児童自ら課題を自分のものとして捉え、自力解決し、積極的に自分の考えを表現できるような授業を行い、教員の授業力向上を目指す。
- ・学習課題に対し、思考の流れが分かるノートのとり方を教員に周知し、全校で取り組む。
- ・ICT機器を効果的に活用し、児童の興味・関心を引き出す、考えを共有する、理解を深める等の活動となるようにする。
- ・朝読書の実施と共に、学校図書館司書やボランティアを活用して、図書室や学級文庫の整備を行い、読書活動を更に充実させ、読書好きの児童の育成や読書週間の形成を図る。

(2) 基礎・基本の定着

- ・授業開始時に本時のねらいを明確にし、児童の学習意欲の向上を図り、終わりにはまとめと学習課題に関する振り返りをして、学習内容を確実に身に付けさせる。
- ・算数科では、振り返りシートや東京ベーシックドリルを活用し、基礎的な内容の確実な定着を図る。また、図形に関する問題を特に多く活用し、図形領域での知識・理解を深めていく。
- ・社会科では、47都道府県や地図記号などの基礎的な学習の定着と共に、複数の資料を読み取って考察するなど活用的な学習も多く取り入れ、知識・理解を深めていく。
- ・週2回の朝学習時間を活用し、4教科で前学年までの復習や短作文、記述問題にも取り組み、既習事項の定着に努める。
- ・「漢字コンテスト」「計算コンテスト」を年に2回実施し、学習意欲と学力の定着・向上を図る。
- ・放課後学習教室を活用し、主にCD層の児童のつまづきを点検し、個別に学習指導を繰り返し行っていく。

(3) 家庭との連携を図った学習習慣の確立

- ・学習指導の一貫として、全学級で適切な宿題や課題を継続して出し、家庭での学習習慣を付けさせる。
- ・家庭で机に向かう時間（学年×10分）を示し、宿題以外の予習・復習や、テストの見直しができるようにする。
- ・「横川スタンダード」「横川っ子のやくそく」を家庭に示し、児童の学習習慣を確立していくために、個人面談や学年だより等で家庭に協力を願っていく。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各学年CD層からB層へ5%増加させ、社会のDE層を20%程度に減少させる。
- ・平均正答率を5ポイント以上、上回り、今年度より同一集団の成長をさらに伸ばしていく。
- ・集中力を向上させることで無解答率を減少させ、目標値を上回る集団へと変容させる。